

こころ
〈世界の詩歌と書のコラボレーション 2019〉 第2回イベント

荒野に呼ぶ声

—近代以降朝鮮の詩人群像

ソ・キョンシク

徐 京植 氏 (東京経済大学教授、図書館長)

1970年代以降の民主化運動の過程で素晴らしい韓国の詩人たちの存在が知られるようになりました。
金学鉉(キム・ハッキョン)、金芝河(キム・ジハ)、
申東暉(シン・ドンヨプ)、申庚林(シン・キョンリム)、
梁性佑(ヤン・ソンウ)、尹東柱(ユン・ドンジュ)
といった詩人たちの作品世界を味わいながら、
韓国人(朝鮮民族)の詩的情緒の世界、
さらに現代世界において「詩」がもつ意味にまで
想像と考察を広げていきましょう。

2019.12.7(SAT) 13:30-15:30

津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス2F会議室

対象：同窓生、学生、関係者

参加費：1,500円(学生：750円)

*要申込み

<http://www.tsuda-jyuku.org/project/>

現在の韓国を含めて、朝鮮半島の南北さらに中国東北地方、日本、中央アジアなど、世界の広い地域に朝鮮民族は暮らしています。この人々に共通する歴史的経験を基盤とする豊かな詩的世界も同じように広がっています。過酷な歴史によって絞り出され磨き上げられてきたものと言えるでしょう。韓国では詩人たちは社会問題をはじめ社会の多様な問題に積極的に発言し、よく売れる詩集は発行部数10万部を超えることも珍しくありません。

【講師からのメッセージ】

日本で生まれ日本語を母語として育った私は、長い間自民族の詩人たちについて無知でした。

1970年代以降の民主化運動の過程で素晴らしい詩人たちの存在を知ることになりましたが、本格的に彼らについて知ることができたのは、金学鉉(キム・ハッキョン)著『荒野に呼ぶ声 一恨と抵抗に生きる韓国詩人群像』(柘植書房)という書物によってでした。初版が出たのは1980年のことです。

金芝河(キム・ジハ)の詩は当時、韓国国内では発禁でしたが、日本では広く読まれていました。彼の詩の数々、とくに「灼けつく渴きで」を、それこそ私は、渴きに苦しむ人のように繰り返し読みました。

金芝河以外にも、申東暉(シン・ドンヨブ)、申庚林(シン・キョンリム)、梁性佑(ヤン・ソンウ)、尹東柱(ユン・ドンジュ)、といった詩人たちの作品世界はなんと熾烈で、凄絶で、真実であることか。

彼らの作品を聴衆の皆さんとともに味わいながら、韓国人(朝鮮民族)の詩的情緒の世界、さらに、現代世界において「詩」がもつ意味にまで想像と考察を広げたいと思います。日本人の皆さんにとっても、「隣人」の心の奥を想像するために必要なことではないかと考えます。

【申込み方法】

同窓会 HP 企画事業エントリーシート、メール、電話のいずれかでお申込みの上参加費を下記の要領でお振り込みください。
*当日受付での支払いの場合、500円を追加させていただきます。

① 銀行振込の場合

三井住友銀行 新宿支店
口座番号 普通預金 4487025
口座名 一般社団法人 津田塾大学同窓会
振込人名と電話番号を入力

*振込人名が異なる場合は事務局に連絡してください。

② 郵便振替の場合

口座記号・番号	00110-9-23230
加入者名	シヤ) 津田塾大学同窓会
通信欄	参加者の住所・氏名、電話番号を記載

【ソ・キョンシク (Suh Kyungsik)】

1951年京都市に生まれる。早稲田大学第一文学部(フランス文学専攻)卒業。現在、東京経済大学教授、図書館長。主な著書に『私の西洋美術巡礼』『私の西洋音楽巡礼』『汝の眼を信じよ!一統ドイツ美術紀行』(以上、みすず書房)『子どもの涙—ある在日朝鮮人の読書遍歴』(柏書房、小学館文庫)『プリーモ・レーヴィへの旅—アウシュヴィッツは終わるのか?』(朝日新聞社、晃洋書房)『フクシマを歩いて—ディアスポラの眼から』毎日新聞社『詩のカー「東アジア」近代史の中で』(高文研)『在日朝鮮人ってどんなひと?』(平凡社)徐勝・徐俊植『徐兄弟 獄中からの手紙 徐勝、徐俊植の10年』(岩波新書・編訳書)他

2019.12.7(土) 13:30-15:30

津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス 2F会議室

対象:同窓生、学生、関係者

参加費:1,500円(学生:750円)

【アクセス】

- JR 総武線・中央線 千駄ヶ谷駅、徒歩1分
- 都営地下鉄大江戸線 国立競技場駅、A4出口より徒歩1分
- 東京メトロ副都心線 北参道駅、徒歩10分

*講演会場でハングル文字の書道作品等の展示も行います。

皆さまのご参加をお待ち申し上げます。(津田塾大学同窓会 DGC 委員会)

申込み&問合せ先 同窓会事務局 (10:00~17:00)

E-mail : ogoffice@tsuda-jyuku.org 電話 : 03-3478-1972 HP : <http://www.tsuda-jyuku.org/project/>